

# 研究報告会

開会式 挨拶 豆田 洋二 (社)中国地方総合研究センター常務理事)

## 研究報告

『広島市の都市の魅力に関する若者の意識調査結果』

橋本 慶子 [財ひろぎん経済研究所 研究員]

『県民生活行動からみた地域の盛衰』

小川 雄三 [財岡山経済研究所 研究員]

『山陰の高齢者介護』

大上さよ子 [財山陰経済経営研究所 研究員]

『産業廃棄物最終処分場の立地』

多田 卓史 [財徳島経済研究所 主任研究員]

『山口県のベンチャー企業の実態』

中村 滋 [財山口経済研究所 調査研究係長]

『しまなみ海道と愛媛の経済』

福嶋 康博 [株いよぎん地域経済研究センター 主任研究員]

『県産材利用の費用便益分析—中間報告—』

網濱 基 [財とっとり政策総合研究センター 研究員]

『全国および中国五県の住宅事情』

小出 修司 [社)中国地方総合研究センター 副主任研究員]

閉会式 座長講評 松水 征夫 (広島大学経済学部教授,  
地域経済研究センター研究員)  
山下 彰一 (広島大学大学院国際協力研究科教授,  
地域経済研究センター研究員)  
金原 達夫 (広島大学大学院国際協力研究科教授,  
地域経済研究センター研究員)

## 挨拶

中国地方総合研究センター常務理事 豆田 洋二

昨日今回の研究集会の初日に、10周年の記念フォーラムが開催され、戦後50年の中の最近の10年を中心として、振り返るといふか、その位置づけがなされたと思います。また、今後の地域経済の見通しと地域政策について、活発な討議のもとで、ある程度方向づけがなされたと思います。

さて、地域経済研究センターには、発足以来、地域のシンクタンクに対して研究発表の機会をずっと継続してつくっていただいております。お蔭を持ちましてシンクタンクとしての調査研究のレベルアップや研究交流ができましたし、またセンターの旗印の一つである産官学の連携が深まっており、心から感謝申し上げる次第です。

皆様方は既にご存じのことと思いますが、このセンターは10年時限になっておりまして、公式の活動としてはおそらく今回の研究集会で一応終了ということになろうかと思っております。このセンターは、広く中国地域全般にわたりまして、地域には欠かせない存在になっており、かねてから関係団体等で強く存続を関係先をお願いしているところです。本日も中国経済連合会をはじめ商工会議所、経済同友会等において、多田会長はじめ代表の方々が、文部省・大蔵省に陳情に赴いておられます。幸い、昨日、戸田センター長ほか皆様方のお話をお聞きしたところ、名称は変わりますが、改組存続の可能性がかなり高まったということで、大変嬉しく思っているところです。是非そうなって欲しいと強く念じております。

さて、地域経済研究センター発足の10年前と今日とでは、社会経済システムが大きく変革していることは、皆様はよくご承知の通りですが、最近におきます政治経済の混迷は目を覆うばかりです。一方では、社会基盤の整備とか高度情報化につきましてはかなり進んでおりまして、とくに後者は大変なスピードで情報化が進んでおります。余談ですが、先週末の新聞記事にも、10月1日に行われました各企業の内定式において、松下電器では内定者をたくさん集めて行うということをやめて、インターネットを通じて内定の各人に通知したり、また、会社としてのコメントもその中に入れ込んで、人を集めないで内定式をやったという画期的な記事が載っておりました。情報化もここまで進んだかと感慨無量でした。

ところで昨日も再三お話が出ておりましたが、今年の3月に閣議決定をみました全国総合開発計画において、地域の自立ということと、参加と連携がキーワードになっております。この計画を受けまして、現在、中国地方開発促進計画、四国においては四国の

開発促進計画の策定が、それぞれ大詰めの段階になっております。全総計画との整合性を図りながら地域の特色も盛り込まれて、いよいよ来年の3月には、閣議決定を経て公にされます。ご承知のように国とか地方の財政事情が大変逼迫している中で、私どもの地域のシンクタンク的环境も厳しいものがありまして、各シンクタンクはいろいろ工夫しながら頑張っているわけです。先ほどから申し上げているような社会情勢の中で、今こそ私ども地域のシンクタンクの出番が従来にも増して高まっていると言えます。それを踏まえていい政策提言をやっていかなければと強く認識をしているところです。

今回の研究集会につきましても、地方シンクタンク協議会中国・四国ブロックおよび中国地域シンクタンク協議会の両者が共催の形で加わらせていただいております。そのあたりも戸田センター長をはじめ広島大学の温かいご理解をいただき、昨年から共催の形でやらせていただいて今年で2年目になるわけです。本日は例年にも増して8機関が研究発表報告をいただくことになっております。従来より若干1機関の発表時間が限られるわけですが、それぞれまとめていただいた研究報告を、その趣旨に則ってうまく発表していただけたらと思います。

ご多忙の中を座長・討論者として大学の先生方にご出席賜りまして、厚くお礼を申し上げます。本日は夕刻までまる1日長時間に及ぶ研究報告会ではありますが、どうか会場にお越しの方々も積極的に討論にご参加をいただき、実り多いものとなりますよう祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。